

鶺鴒ツバメのねぐら入り観察会

2019. 8. 3(土) 17:20~20:00 日本野鳥の会大阪支部

担当 平 軍二(☎090-6901-1425) (Eメール g-hira@nifty.com)

南 茂夫、前田 初雄、甲田 照二、斎藤 健、西脇 淳浩、香月清宏

1. 明日定例会は夏休み、今夕鶺鴒でツバメのねぐら入り観察会

日本野鳥の会大阪支部では、暑くて鳥が動かず観察しにくい 8 月は、定例会を夏休みにする所が多くなっています。淀川牧野探鳥会も明日定例会は夏休み、今日ツバメのねぐら観察会を行います。

昨年までのツバメのねぐら観察会は、高槻市鶺鴒ヨシ原へのねぐら入りを、対岸の枚方市牧野側から見ていました。しかし下記の理由から、今年からねぐらに近い高槻市側での観察に変更しました。

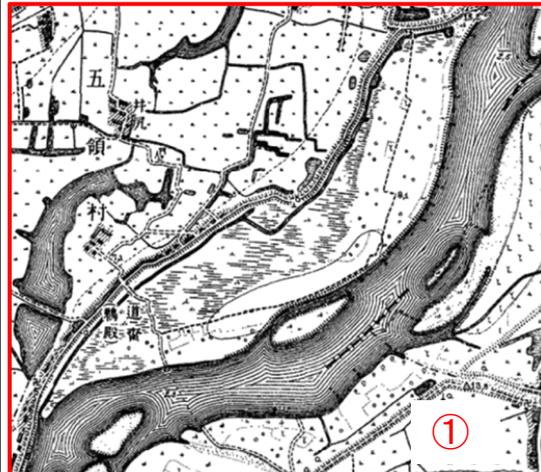
①ツバメのねぐら位置が変化しても対応できないこと

②毎年観察できたカラスウリの花が、樹木伐採で無くなったこと
今日は、昨年より近くでツバメのねぐら入りを見ます。カワラヒワ・スズメもねぐらに入り、ハヤブサが狩りに出動してくれる筈です。

2. 「本部作成全国ツバメねぐらマップ」を無償配布 →→→

3. 淀川鶺鴒周辺の変化を空中写真で

- ①明治の鶺鴒は湿原だったことがわかる。
- ②終戦直後は淀川両岸にワンドが連続していた。
- ③④比較から、ヨシ原面積が減少している。
- ④写真ではわからないが、河川改修で水面が低くなり、ヨシ原→オギ原に変化している。
ツバメはヨシ原を好むので、河川事務所が行っている、ヨシ原回復作業に期待している。



1911(明治 44)年



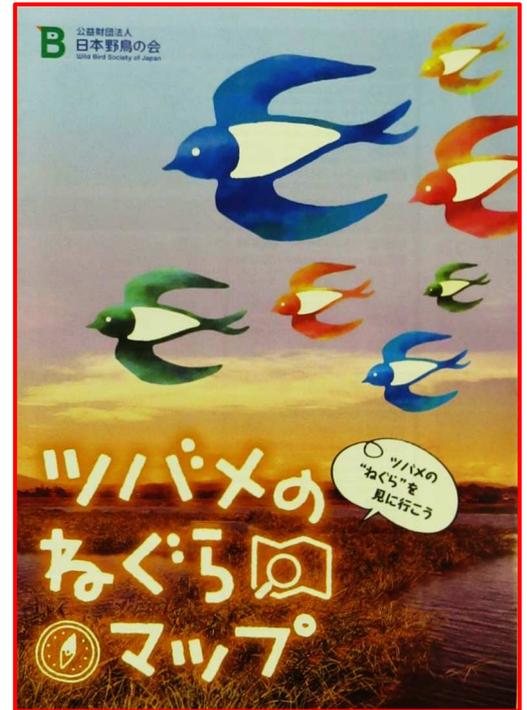
1948(昭和 23)年



1979(昭和 54)年国土地理院空中写真



2019(令和元)年グーグルマップ



4. ツバメのカレンダー

日本(関西地方)におけるツバメの生活史を漫画にしました。

2羽のペアが1回5羽を育て、2回目も5羽子育てすると10羽巣立つこととなりますが、実際にはそこまで育つことは稀、半分の5羽程度かと思っています。

それでも翌年、巣立ったヒナ5羽+親鳥の全員が帰ってくれば7羽(今年の3.5倍)と計算されます。これが真実なら、住宅地にもツバメがあふれると思えますが、そんなに増えることはありません。

おそらく巣立ち直後は**一時的に7羽**が増えても、その後の一年間には波乱の人生

夏: 昼は生まれた巣の近く・夜はねぐらへ移動の頃、餌取りをマスターし独立したか

秋: 越冬地の南へ渡る途中に無事か

冬: 越冬地で餌不足 or 外敵の餌食

翌春: 繁殖地の北へ戻る途中に無事か

などで、繁殖活動に入る頃は一年前と同じ2羽程度になる、**増減無し**が本当の所でないでしょうか。

5. 先月(19年7月)枚方牧野探鳥会

暑い夏の日となり、探鳥コースは御殿山駅まで(半分)のコースとした。先月より種数個体数とも少なくなったものの、オオヨシキリ・ウグイス・ホオジロのさえずりが良く聞くことができ、繁殖中の鳥もモズ・ツバメ・スズメなど幼鳥、巣作り中のカイツブリ・ヒヨドリなど、10種以上あった。

チョウゲンボウ・ササゴイ・カワセミなど、トータル30種の野鳥を観察することができた。

6. 次回は定例日9月1日(日)に開催

9月初旬も真夏の暑さが続いていると思われるので、7月と同じ半日開催で、御殿山駅までとします。

月日: 9月1日 **集合**: 9:00 京阪枚方市駅下車、5分のラポールひらかた前集合

解散: 12:00 頃、京阪御殿山駅近く **持ち物**: 双眼鏡・筆記具+**熱中症予防に水分&塩分補給対策**

留意事項: 9月に入ると秋の渡り鳥が戻り始める季節、どんな鳥が出てくれるでしょうか。

7. 探鳥会で観察した鳥

科名	種名	科名	種名
カモ・カイツブリ		ツバメ	
ハト		ヒヨドリ・ムクドリ	
ウ・サギ		ウグイス・ヨシキリ	
クイナ・シギチ		スズメ・セキレイ	
タカ・ハヤブサ		アトリ・ホオジロ	
カラス		合計	種

